

郷土資料館だより

Vol.38 No.1

2015.8.1

企画展示室 「こどもとあそび」 開催中

●開催期間 平成27年7月18日(土)～9月23日(水・祝) ●会場 郷土資料館1階 企画展示室

郷土資料館では、企画展「こどもとあそび」を1階企画展示室で行っています。昔の子どもにとって1日の中心は、家の手伝い、学習、そして、あそぶことでした。子どものあそびは時代とともに変化し、そしてまた、あそび道具であるおもちゃも、子ども達のあそび方の変化に伴い移り変わっていきました。今企画展では、江戸時代から昭和時代までのおもちゃを展示し、子どもたちのあそびをたどります。

●主な展示内容

◆江戸時代のこどものあそび

現代に伝わる江戸時代の子どものあそびを、浮世絵(複製)をとおしてご覧いただきます。また、江戸時代の教科書や絵本、百人一首などを展示しています。

『農業往来』明治3年(1870)

江戸時代から明治初期の寺子屋では「往来物」といわれる教科書がよく使われていました。この『農業往来』は、子ども向けに書かれた農業指南書で、字も大きく振り仮名も振られています。



◆三島の夏

水が豊富だった頃の三島の夏の風景といえば、源兵衛川で泳ぐ子どもたちの姿が目につかびます。当時の子どもたちの夏のすごし方を資料とパネルで紹介しています。

箱めがね

本来は、海中を覗く漁具ですが、川遊びで川底を覗く時に子どもたちのあそび用具としても用いられました。



◆モダンな大正おもちゃ

大正時代は世の中で機械が発達し、おもちゃも動く玩具(飛行機・電車・自動車など)が普及していきました。また、セルロイド製のキューピー人形も流行しました。



母乳車とうさぎの人形

大正時代のセルロイドでできた人形です。ブリキ製の母乳車に3人子どもが乗っていて、親子で散歩しているようです。

◆昭和レトロおもちゃ

昔、どの町にもあった子どもの社交場、駄菓子屋。そこは、いつもわくわくに出会える最高の場所でした。展示ではメンコ・コマ・日光写真などを紹介しています。



紙メンコ

時代と共にその形を変えたメンコ。その中でも紙メンコは人気で、その時代の子どものヒーローが絵柄を飾りました。



『教育絵本 汽車ト乗物』
大正12年(1923)

◆歴史をかたるものたち

明治5年(1872)、新橋―横浜間に日本で初めて汽車が開通します。明治28年(1895)には、京都に市電(チンチン電車)が走りました。大正時代に入り、銀座で運行を開始した日本初のタクシー。バスは、「青バス」といわれる民営バス(観光バス)や、市営バスが運行を開始します。大正12年(1923)関東大震災により、市電、鉄道、バス等が壊滅的な被害を受けますが、これにより自動車も普及します。大正時代は、道路や交通機関が整備され、大都会を中心に衣食住の洋風化が進んだ時代でした。絵本の一場面からもそれが読み取れます。

企画展「新規収蔵品展」報告

- 開催期間 平成27年4月18日(土)～6月28日(日)
- 入場者数 10,531人
- 会場 郷土資料館1階企画展示室
- 展示資料数 103点

今回の企画展では、市民の皆様からのご寄贈や購入によって新たに収蔵した資料の中から、三島宿絵図、江戸時代に名主を勤めた安久の杉山家文書、紺屋資料、地域史研究資料、和菓子店で使われていた菓子木型、製糸場関連資料、浮世絵などを展示しました。



展示室の様子



戦争関連資料・原田染物店資料

三島宿絵図



明治天皇の東幸に関する資料と一緒に保管されていたこともあわせて、幕末・維新期のものではないかと推測されます。

この絵図では大きな門・柵が特徴的です。他の絵図には描かれていないので、この時期に設けられたものでしょうか。また、陣屋が描かれていません。その他は問屋場、2軒の本陣、3軒の脇本陣、三嶋大社の三重塔、愛染院、小浜池周辺の宝国院・七面堂など江戸時代の三島宿の特徴とほぼ一致しています。

藤秀館製糸場資料

藤秀館製糸場は明治時代に三島にあった製糸場です。富国強兵をめざしていた明治時代、諸外国との貿易において蚕の繭から作る生糸(絹糸)は日本の輸出産業の中心的存在でした。伊豆においても明治8年(1875)松崎に、翌9年には葦山に器械製糸場ができ、同11年には産繭品評会が行われるなど生糸生産がさかんになり、三島にも明治中期には製糸工場が多く設立されました。藤秀館製糸場もその中の一つです。

藤秀館製糸場は「伊豆三大製糸」と呼ばれたほど大きな工場でしたが、確認されている資料が少なく、操業時期についても情報が錯綜するなど、これまで詳しいことがわかっていませんでした。しかし平成25年、藤秀館製糸場を営んでいた藤池家に伝わる資料が当館に寄贈され、製糸場に関する資料も多数含まれていたため、今回一部の資料を紹介することができました。

藤秀館製糸場は明治29～30年頃裏町周辺(現在の三島市中央町)に設立され、明治32年に宮町(現在の大宮町)に第二工場を設立するなど明治30年代前半には順調に経営規模を拡大していきました。明治33年に農務省が調査した「第3次全国製糸工場調査表」では、三島町の製糸場として記載されている5工場のうち最大規模、140釜150人と報告されています。同38年調査の第4次調査表でも三島町で最も大きな規模を誇っていたことが確認できますが、同41年調査の第5次調査表では藤秀館製糸場の名前

はありません。この期間に藤秀館製糸場に何があったのか、この度寄贈された資料の中にヒントがありました。

明治40年春に、製糸場を営んでいた藤池浅次郎が「理想的事業」をめざして共同揚柁場(生産した生糸を流通に便利な「^{かせ}総」と呼ばれる形に仕上げる工程を行う)を設立したものの諸般の事情により一時休止したことを書いた資料が見つかりました。資料の中には同年夏に工場を手放したことを示す契約書も見つっています。明治39年の年号が入った工女成績表、工賃支払帳はほとんど使われておらず、明治39～40年頃製糸場経営が危機を迎えていたことが窺えます。

寄贈資料からは、明治41年春には講を作って集めた資金で新しく「三島社製糸場」を設立することを計画したこと、しかし同年11月に廃業に至ったことが判明しました。器械製糸に必要な蒸気汽缶の停止届は大正2年(1913)に提出されていることから、ここまでは製糸業の再興をめざしていたのか、もしくは小規模ながら存続できていたのかもしれない。

製糸業から撤退した藤池氏の新しい事業についても判明しました。大正4年、三島停車場通り(現在の大通りから田町駅に至る道)に物産売買委託営業の店を構えた際のお披露目の挨拶状が残されていました。横浜の商人と物品のやり取りを活発に行っていた様子が証文や電報から窺えます。



生糸取引で交わされた仕切書(明治31年)



廃業届(明治41年)

ふるさと講座「伊豆半島ジオパーク探訪④」報告

- 開催日時 平成27年5月29日(金) 午前8時45分～午後3時30分
- 講師 静岡県地学会東部支部長 増島 淳先生
- 見学地 「伊豆半島ジオパーク」の中伊豆エリアのジオサイト7ヶ所(旭滝・狩野川タービダイト・下白岩化石産地・萬城の滝・蛇喰川火砕流・上白岩環状列石・姫之湯断層)、伊豆市資料館
- 参加者 30人

平成24年度以来の好評を受け、本年度も増島淳先生のご案内のもと「伊豆半島ジオパーク探訪」を実施しました。4回目となる今回は、中伊豆エリアのジオサイトを中心として見学地を選定し、定員を上回る数のご応募をいただきました。

当日は途中から雨に見舞われてしまいましたが、いずれの見学地でも伊豆半島の大地が辿った壮大な歴史の跡をはっきりと目にすることができました。増島先生の解説はとてわかりやすく、参加された方々も積極的に質問をされていました。また中伊豆ジオガイドの関原規由氏も案内役としてご協力くださり、参加者の皆様からは「伊豆半島の成り立ちがよくわかり、参加してよかった」「地球の歴史に触れてわくわくしました」「もっとこのような企画を増やしてほしい」「また参加したいです」といった感想をお寄せいただき、大変好評でした。



企画展「はかる道具」報告

- 開催期間 平成27年1月24日(土)～4月5日(日)
- 会場 郷土資料館1階企画展示室 ●展示資料数 132点 ●入場者数 8,765人
- 関連事業 (1)展示解説(①1/28(水)、②1/31日(土))参加者 14人
(2)桿ばかりをつくってみよう(①2/21(土)、②3/22(日))参加者 14人

今回の企画展では、小学生の昔のくらし見学の時期に合わせて、昔の道具の一つである秤はかりや枡ますを中心とした「はかる道具」を展示しました。小学生の見学を意識したため、アンケート結果を見ると見やすさやわかりやすさでは高い評価でしたが、その反面、資料点数が少なくなり、展示の数の評価では普通かそれ以下の回答が多くなってしまいました。また、期間中には秤や計量史に関心のある研究者、収集家の方々の来館が複数あり、いろいろな話を聞くことができました。

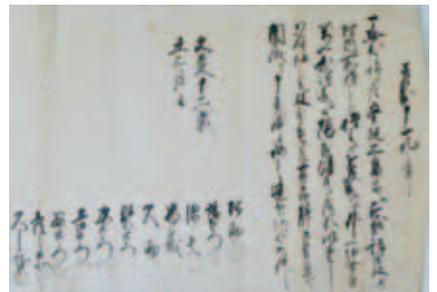
展示では江戸から明治にかけての桿秤さおばかりを中心とした秤類、枡、時計、三嶋暦などが中心となり、計量史の研究者福元清一氏や市内の郷土史家関守敏氏などのご協力により貴重な資料を展示することができました。これらの資料についてはパンフレットなどでも紹介しましたので、以下では展示資料の中から秤改めに関する資料を紹介します。



差出申一札之事(安久 杉山家文書)文政12年(1829)3月

江戸時代の秤作りは東日本は守随家しゆずい、西日本は神家じんのふたつの家のみに許されていました。これを秤座はかりざといい、秤座の刻印のない秤の使用は禁止され、また、何年かに一度は秤座による検査(秤改め)が行われていました。

この文書では、三島宿に守随家の者が秤改めに来た際には村内で使われている秤をすべて持ち主から差出させます、と領主に対して約束しています。そして、秤の持ち主だけでなく村内50軒すべての家の者が印を押して、領主に対してこの文書を提出しています。また、この文書は秤の持ち主の控で、末尾に持ち主として5人の名前が書かれているので50軒中5軒にしか秤がなかったということもわかります。



差出申一札之事(一部)

秤御改書上帳(安久 杉山家文書)嘉永5年(1852)10月

この年にも秤改めがあり、村の家数50軒に対し桿秤8、分銅・かけ(掛分銅か)2が秤改めを受けたようです。ただし、分銅については秤改めとは別に分銅改めがあったので、なぜここで「分銅」が書上に含まれていたのかは不明です。

その他、展示では伊豆の国市小坂 大川家より「御秤改ニ付小前連印帳(文政12年)」(村内の秤をすべて秤改めに出すこと、もし隠している秤があれば見つけ次第村役人に渡すこととする、など)、「秤御改書上帳(嘉永5年)」(秤の検査や修理・取替の代金などの記録)の2点の文書をお借りして展示しました。

郷土教室・体験イベントの報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成27年5月から6月までに行った事業をご紹介します。

日程	郷土教室	内容	参加者
5月5日(火・祝)	こどもの日体験デー	折り紙でこいのぼりを作る、おおきなカブトを作る、コマ・けん玉・竹とんぼ遊び	145人
5月10日(日)	古代の暮らし	勾玉づくり、火おこし、土器当てクイズ、弥生人風衣装の着用	57人
5月23日(土)	立版古をつくろう	立体的な浮世絵「立版古」を作る、3階三島宿コーナー展示のガイド	34人
6月6日(土)	型染め体験 (カードづくり)	染物屋さんが使う「防染」という技法で紙を染めてカードを作る	35人
6月13日(土)	昔のどうぐ	石臼・製麺機・鯉節削りの体験、和菓子の木型でねんどを型抜きし色を付ける、企画展示室の見学	47人



こどもの日体験デー



古代の暮らし

型染め体験



8～9月の郷土教室予定

日程	郷土教室
8月 6日(木)	古代の暮らし
8月 9日(日)	昔の暮らし
	機織り体験※(小学4年生～、要申込み)
8月16日(日)	クラフトづくり
9月13日(日)	昔のどうぐ
9月26日(土)	立版古をつくろう
9月27日(日)	型染め体験(カード作り)

開催時間 10:00～12:00、13:00～14:30

(※は開催時間が異なります)

みなさまの参加をお待ちしています。

平成26年度 郷土資料館事業報告

●企画展示

展示名	実施期間	主な展示内容	入館者数
「三島宿を支えた人々 三島 問屋場・町役場文書から」	4月12日(土) ～6月29日(日)	「三島 問屋場・町役場文書」から江戸時代の三島宿を紹介 ●東海道と三島宿 ●三島宿の風景 ●幕末の三島宿 など	10,928人
	関連事業：展示解説(4/27・5/5)10人、『候』をさがせ・宿場町クイズ(4/12～6/29)		
「郷土資料館収蔵美術品展」	7月19日(土) ～9月15日(月・祝)	絵画、墨跡、工芸品を中心に展示し、郷土ゆかりの芸術家や 作品を紹介 ●宮様ゆかりの名品 ●「三四呂人形」など	7,990人
	関連事業：みよろ人形のぬり絵にちょうせん(7/19～9/15)228人		
「楽寿園の歴史 —江戸時代から今日まで—」	10月11日(土) ～11月30日(日)	江戸時代から現在までの小浜池一帯、楽寿園の歴史を紹介 ●江戸時代の小浜山付近 ●別邸の造営 など	10,966人
	関連事業：みんなの楽寿園思い出写真展(10/11～11/30)3人		
静岡県埋蔵文化財センター巡回展 「弥生スタイル～弥生人が創造し た意匠と造形～」	12月12日(金) ～平成27年 1月12日(月・祝)	静岡県が保有する文化財の中から、弥生時代の優れた意匠・ 造形をもつ文化財を限定公開 ●木のデザイン、石の造形 ●最先端素材の意匠 など	2,509人
「はかる道具」	1月24日(土) ～4月5日(日)	桿秤や枡などの計量器具を中心に紹介 ●重さをはかる ●長さをはかる ●体積をはかる ●単位の今・昔 など	8,765人
	関連事業：展示解説(1/28・1/31)14人		

●その他の展示

生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」展示、三嶋暦師の館、西小学校郷土資料室

●講座・教室・講演会

	講座名	開催日	人数	講座名	開催日	人数
郷土教室	こどもの日体験デー	5月5日(月・祝)	35人	立体浮世絵 立版古を作ろう	12月13日(土)	12人
	古代のくらし	5月11日(日)	71人	ワラ細工をつくろう	12月14日(日)	55人
	昔のどうぐ	6月8日(日)	68人	土器当てクイズと弥生人風衣装を 着てみよう	12月20日(土)	7人
	楽寿園の自然	7月13日(日)	60人	毛糸でリリアンあみをしてひつじを つくろう	平成27年 1月11日(日)	13人
	夏休み体験デー 古代のくらし	8月6日(水)	53人			
	昔のあそび	8月10日(日)	6人	葉っぱ・どんぐりの工作	1月18日(日)	50人
	昭和のくらし	8月10日(日)	16人	昔のあそび	1月24日(土)	55人
	夏休み体験デー 機織り 講師：杉山洋子氏	8月23日(土)	9人	旅人装束を着てみよう	1月31日(土)	7人
	クラフトづくり	8月23日(土)	16人	昔のどうぐ	2月8日(日)	11人
	昔のどうぐ	9月14日(日)	63人	富士山の溶岩観察 ※	2月15日(日)	68人
	昔のあそび	10月12日(日)	32人	桿ばかりを作ってみよう	2月21日(土)	8人
	立体浮世絵 立版古を作ろう	10月19日(日)	6人	富士山であそぼう・まなぼう カルタ と溶岩観察 ※	2月23日(月)	83人
	型染め体験	10月25日(土)	22人	立体浮世絵 立版古を作ろう	2月28日(土)	22人
	昔話の紙芝居	11月1日(土)	33人	型染め体験	3月8日(日)	46人
	子どもと大人の美術体験! ピューターでメダルを作ろう 講師：鈴木生氏	11月2日(日)	9人	楽寿園の自然	3月15日(日)	102人
	楽寿園の自然	11月9日(日)	75人	桿ばかりを作ってみよう	3月22日(日)	6人
	ミニチュアうどんをつくろう	11月22日(土)	71人			
旅人装束を着てみよう	11月29日(土)	4人	旅人装束を着てみよう	3月28日(土)	9人	
ふさと 講座	伊豆半島ジオパーク探訪 講師：増島淳氏	10月11日(土)	24人	—	—	—
その他	三市博物館連絡協議会 文化財講座「災害を識る。文化財を 守る。東日本大震災文化財レスキュー の活動をとらえて」講演会 講師：菅野正道氏 ほか	10月3日(金)	52人	同左 パネル展	10月18日(土) ～26日(日)	—

※富士山の日協賛事業

●団体見学

21件(市内小学校12件、市外小学校2件、その他7件)

●資料の収集、保管状況

平成26年度末現在 収蔵資料総数 37,553点(民俗5,919点、歴史31,261点、美術342点、自然31点)
平成26年度新規受入資料数 14件(内訳：寄贈10件、購入4件)
購入資料：「修身読方漫画オハナシ双六」、「支那征伐双六」他

三島の歴史とジオポイント・4

—玉沢・妙法華寺の寛永寺燈籠—

この春、妙法華寺・満開の山桜巨木を出発地として、夏梅木川沿いのジオツアーを実施しました。

妙法華寺境内の見学を終え、昭光門を出て右手を見ると、一對の美しい大型石燈籠があるのに気が付きました。石材が三島市内の石燈籠(大部分が第三系・数百万年前の凝灰岩製)とは異なるようなので確認することにしました。

石燈籠全体が、三島市を含む北伊豆地域では見かけない輝石の斑晶が目立つ安山岩製(火山岩の一種)です。六角形で蕨手文の笠は、斜長石の白斑が目立ち、材質がやや異なるようです。

中央部が膨れた形の竿の陰刻は、両基に共通して「奉獻石燈籠壹基」「武州東叡山」「文恭院殿 尊前」「天保十二辛丑年(右・正月)(左・閏正月晦日)(1841年)」とあります。

寄進者は、右「越前国大野城主・従五位下土井利忠」、左「信濃国高遠城・従五位下内藤駿河守藤原□□(朝臣or頼寧)」です。両基の六角形の火袋には「三つ葉葵」の家紋が浮き彫りされています。「武州東叡山」は東京・上野の「寛永寺」です。「文恭院殿」は第11代将軍・徳川家斉の戒名です。以上から2基の石燈籠は寛永寺にある将軍家斉の墓域に寄進されたものであることがわかります。

寛永寺は、東京都港区芝公園の増上寺とともに徳川家の墓所です。明治維新・関東大震災・東京大空襲・戦後の復興期など、時代の荒波を受け、墓域は大幅に縮小し、歴代将軍の墓前に寄進された石燈籠は行き場を失い、各地に移設されました。

かつて、増上寺には諸大名が奉納した石燈籠が千基以上ありましたが、現在は37基が残るだけです。失われた石燈籠のうち600基以上の移設先が確認されていますが、寛永寺の石燈籠は調査されていません。

後日、ジオツアーに参加された方が、ご住職に確認したところ、「以前、当寺が寛永寺に寄進を行ったので、戦後になって石燈籠をくださるとのお話があり、トラックで運んできました」とのことです。

沼津市・牛臥の日廻寺にも寛永寺の石燈籠が一基あります。同じく「文恭院殿」です(寄進者は織田大和守信陽)。移設された時期は、昭和27年～28年頃とのこと。

たぶん、戦後の復興期に寛永寺境内の整備を行う際、将軍・家斉の墓域などが整理され、行き場を失った石燈籠が各地に移設されたものと思われます。

妙法華寺は徳川家の賢婦「お万の方」が大旦那として当地に再興し、当寺は10万石の格式とされ、参勤交代の諸大名が参詣したそうです。

夏の妙法華寺、山寺に吹く風に涼みながら、明治初期の廃仏毀釈で三嶋大社から移された「金剛力士像」などとともに、「寛永寺燈籠」をぜひご鑑賞ください。

(郷土資料館運営委員 増島淳)



妙法華寺の寛永寺燈籠



「三つ葉葵紋」の入った火袋



竿部の陰刻

寄贈・購入資料の紹介

平成26年11月から平成27年6月までに、次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。また、2点の資料を購入しました。

●寄贈資料

寄贈者名前	寄贈品	点数
吉田しづ江氏(三島市)	菓子木型、木べら	20点
—————(三島市)	帯、ものさし、くけ台、三島駅開業50周年記念入場券	4点
北上小学校(三島市)	ホウリマンガ、マンガ、ノコギリ	4点
—————(三島市)	複製三四呂人形	2点
—————	漫画本サザエさん、別冊サザエさん、いじわるばあさん	72点
蛭海 雄介氏(三島市)	鏡台	1点
—————	絵葉書 (官幣大社三島神社宝物館、国宝 銘宗忠太刀・銘秋義脇差など)	4点
花島 信 氏(三島市)	花島兵右衛門胸像(台付き)、椅子(明治期)、半被、石臼	4点
細野 哲夫氏(三島市)	スライド映写機、ワードプロセッサ	2点

●購入資料

双六 支那征伐双六	明治27年発行 富岡永洗画 博文館蔵版 日清戦争の様子が双六に刷られています。
双六 修身読方 漫画オハナシ双六	昭和11年発行 小林和郎画、小学館「セウガク1年生」正月号付録、 大正14年に創刊された小学1年生向け雑誌の付録で、桃太郎、運動会、お医者ゴッコ、お正月などが双六に刷られています。



菓子木型



絵葉書 官幣大社三島神社宝物館



花島兵右衛門 胸像

平成27年度 郷土資料館職員の紹介
 館長 加藤織江
 職員 平林研治、柿島綾子、笹山曜子、大川裕代、櫻村茜

郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
 TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045
 開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)
 午前9時～午後4時30分(11月～3月)
 休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、
 年末年始
 入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途
 300円がかかります。15歳未満は無料、
 学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

郷土資料館だより

Vol.38 No.1(第112号)
 発行日 平成27年8月1日(年3回発行)
 編集 三島市郷土資料館
 発行 三島市教育委員会
 E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
 URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>